

第14回赤穂海浜公園管理運営協議会 議事録

日時：令和8年6月25日（木）15:00～16:30

場所：赤穂海浜公園オートキャンプ場会議室

出席者：別添出席者名簿参照

配付資料：資料1 第12回・13回協議会での意見と回答

参考資料1 第13回協議会議事録

資料2 令和7年度報告と令和8年度計画について

資料3 施設の設備状況

資料4-1 R7第3回うみの会議ニュースレター

資料4-2 第1うみの会議チラシ

資料5 令和8年度 光都土木工事の予定

1. 開会

赤穂海浜公園管理事務所 金澤所長挨拶

・省略

会長挨拶

・省略

出席者の紹介

・省略

2. 赤穂海浜公園管理運営協議会について

(1) 第12回・第13回意見と回答（参考資料1）

・資料1「第12回・13回協議会での意見と回答」を説明

・参考資料1「第13回協議会議事録」を西播磨県民局のHPに掲載していることを紹介

委員

わんぱく広場に行く親子向けに、公園の東側を通して南側（海側）から入れるルートを検討中とのことだが、尾崎地区は風の門に近く、東側ルートを通して光の門から入ることは考えていなかった。元旦の日の出を見る際に混雑するので、風の門に自転車を置きたい。

委員

自転車で公園の中を通りたいニーズがあるなら、そちらも検討するべきだと思う。

3. 議事

(1) 令和7年度報告と令和8年度計画について

・資料2に沿って説明

委員

テニスコートの件数は大会で使用する場合でも個人的に使用する場合でも同じ1件のカウントになるのか。

事務局

基本的にはそうカウントしている。

会長

イベントの開催において、「実施したが広報が足りず、人が集まらなかったの、次に開催するかどうか自体を検討する」ということはよくあることで、今後も何かを変えないと同じ事がずっと続く。利益幅が大きい民間事業なら利益の3～4割を広報にあてることができ、集客して収入を増やすことができるが、公共施設だと利益幅が少ないため広報に費用がかけられず、窮地に追いやられていくということがよくある。それをどう改善するか。この協議会には観光協会や市の産業課、教育委員会など各種団体が参加して

おり、それぞれで広報をおこなっているが、それぞれの広報の重ね合わせの効果はあったか。

事務局

公園協会単独の時は紙媒体中心の広報だったが、5社の共同事業体になってからは、SNSに長けた事業者もあり、5社になったメリットも発揮しながら1年間やってみたが、昨年夏に実施したプールは思うような集客ができなかった。今後の広報の戦略など、こうしたら良いのではといったご意見をぜひ頂戴したい。

会長

5社のSNS、市や自治会、学校への広報は活用できていたか。

事務局

地元媒体では赤穂民報、登録無料のWEB媒体では関西ウォーカーやウォーカープラス、神戸のエキスプレスに掲載した。また、教育委員会を通じて赤穂市の各小学校の児童へチラシを配布し、費用のかからない範囲で広報を行ったが、今年の夏は類を見ない猛暑で、関西圏の各プールや海水浴施設も同じ現象であった。屋内施設の人気や、大阪関西万博の開催も影響した。今後は赤穂海浜公園を周知してもらう工夫が必要。最近は初めて来られた方の多くが有名なインフルエンサーのSNSを見て来られている。

会長

商圏として大きい姫路をターゲットにして、「姫路プラス赤穂」という発信をすると届きやすくなるかもしれない。

事務局

赤穂海浜公園の利用は半径20キロ圏内であり、東は加古川、西は岡山から来ていただいており、特に「わん博」という犬のイベントは岡山ナンバーの車が多い。

委員

犬のイベントを開催したのは1回だけか。「わん博」は周りから聞いて初めて知った。

事務局

わん博は年2回開催している。犬好きの方同士のネットワークがあり、そこから広がっている。

(2) 施設の整備状況について

・資料3に沿って事務局より説明

会長

整備が進むことで、外部の事業者からこんなイベントをしたいとか、自主的にイベントをやってもらうこととかを20年の指定管理が始まる前から目指していたと思う。そのようなことはホームページ等で周知はしているか。

事務局

整備内容については、斎藤知事が再選された最初の記者会見において、赤穂海浜公園の指定管理計画が発表された。20年という長期間にわたって、民間企業の資金も活用した初めての試みであると県においてもPRをしている。個人的には「三水会」といって商工会議所の中で赤穂市内の各行政機関等のトップが集まる会議で整備内容やイベントの実施内容等をPRしている。

会長

所長の努力でなんとかしようとしている気がするが、もっとハードルを下げた方が良い。例えばイベント活用ガイドを作って情報をオープンにして、イベントに使ってもらえるように周知していくことも重要。

委員

昨年10月にリニューアルしたキャンプ場の集客の状況はどうか。以前より高級な施設となったが、お客様の反応を聞きたい。

事務局

昨年から見ても4月～6月は集客数が増え、休前日の宿泊はグランピング、コテージともにほぼ満室。キャンプサイトの利用も前年比約120%で、キャンプ場全体の底上げとなっている。

委員

赤穂海浜公園と言えば、塩の国や赤穂の塩田も有名で、お客さんも増えていると聞いているが、そちらも継続して宣伝してほしい。

海洋科学館

昨今は塩づくりが有名になり、今年度の利用者は前年比20%以上伸びており、ゴールデンウィーク3日間だけでも2,000人以上の方々が来館した。メディアの取材も多く、海外からも赤穂の塩づくりを目指して来られている。

委員

赤穂でも塩づくりを知らない人がいる。過去2回実施した、地域での塩イベントが好評だった。また実施したい。

委員

赤穂には明石や神戸のような海釣り公園がない。漁礁を作って欲しい。トレインや観覧車を復元するのも良いが、釣り好きが喜ぶこともできないか。昔のような海や魚の復活もお願いしたい。

事務局

潮干狩りは漁協と協力して対応している。最近は釣りをしている方をあまり見かけない。NPO法人赤穂里うみカヤックスの方々も、昔はアマモがたくさん群生して小魚の住処になっていたが、現在はほとんどアマモが育ってないと言っている。

委員

ここは千種川河口の漁場のため、生活排水などの影響もある。自分達ができる範囲では一生懸命やっている。行政や地域の住民も含め、皆で昔の海を取り戻す取り組みが必要だが、何から始めたら良いか、というのが現状。

委員(行政)

下水で水をきれいにし過ぎたのも原因。昔は植物性プランクトンの影響で魚も貝も多かったが、今は貝も植物プランクトンもない。現在は、海底耕耘や施肥、下水処理の段階におけるバクテリアの数の調整に取り組んでいる。瀬戸法が改正され、今は兵庫県から西側は、岡山県や広島県、山口県で一斉に取り組んでいる。大阪湾はまだ赤潮が多く、海が汚れているためこのような取り組みはまだ行っていないが、今後一緒に取り組んでいこうということが兵庫県の水産行政の方向性である。

会長

活動を理解してもらうために、社会実験として1日だけ防波堤を開放してこども向けの公園と親和性のある釣りイベント等を開催して、普及啓発活動をする方法もある。

事務局

初期のうみの会議で赤湖・白湖の汽水湖で釣りをしてみたいと提案された方がいたが、その方は来られなかったため、実現しなかった。

委員

赤湖・白湖の魚は閉じ込められた環境のために奇形の魚が多く、食べられないという意見があり、実現しなかった。

事務局

もともとの考え方は釣った魚を食べるのではなく、湖にどのような生物がいるのか調べるために一回やってみようという発想であった。

会長

一度、釣れるかどうかの調査のために協力してもらう機会をつくってみてはどうか。

委員

有料施設の整備が進んでいる一方で、公共としての利用価値の部分の情報発信もお願いしたい。

会長

団体でも無料で使えるとか、自分達がイベントで使いやすいような区分けがあるとか、何かの近くにこんな広場があるとか、団体に限らず個人に向けてもそういった発信をしたほうが良い。

委員

小さな子どもも安全に自然に触れられるということは公共の都市公園の機能のひとつで、施設整備だけではなくイベントの方も指定管理者には力を入れてほしい。

事務局

これまでは市橋先生にもご協力いただき、県民の森の木の中にロープを張って綱渡りをしたり、手作りのブランコで遊んだり、焼き芋を作ったり、園内の腐葉土の中からカブトムシの幼虫を探したり、赤穂高校から提供してもらった化石で化石割り体験をしたりするプレーパークを実施した。昨年、植物に詳しい方が『うみの会議』に参加された際に公園内の植物について発言され、今年の5月に、うみの会議に参加されたメンバーで園内の植物を観察しながら散策する「大人の植物観察会」を実施された。最近は公園利用の問い合わせも増えている。

委員

イベントを開催することも良いが、個人でもフラッと来て自然にふれられる、そんな遊び方ができるという情報発信もしてほしい。

委員

今まで良い公園だと思っていたのに、逆に公園の良さが無くなったように思う。もっとPRできることがあるのに、そこを推さずに新しい施設やイベントで集客することが違うと感じた。赤穂砂丘やわんぱく広場を広報すれば、もっと人が来るのに、全然違う方向へ行っていると思った。今のバズる要素を無視しているので勿体ない。個人的には、もともとある広場や遊具などをもっと動画やYouTubeに発信しても良いと思う。

事務局

わんぱく広場や難破船、赤穂砂丘は人気で遊ばれる方も多いが、PRできていないように思う。

委員

YouTubeやTikTokで流せば人も来ると思うので、もう少しターゲットを絞って今の人に届くようアピールしてほしい。塩の国にある小屋の中の人形もバズると思うので推してほしい。

海洋科学館

塩の国・海洋科学館を目当てに来る方も多く、以前は阪神地区からも多く来ていたが、今はそれだけでは来ない。また、施設の老朽化が激しく、ウルシが伸びすぎるなど公園の草木の手入れが行き届いていない箇所もあり、SNS等でPRするには厳しい現状もある。

会長

公園のダメなところをマイナスして、そこに何かをプラスする足し算引き算だけではうまくいかない。施設を作るだけではなく、昔からある部分と新しい部分を掛け算してほしい。公園の中だけではなく、赤穂市全体とか、広報や観光戦略とかも重ね合わせて周りの地域もまきこみ、最大限に活かしてやってほしい。

(3) 海の会議実施状況について (資料4)

- ・ 資料4に沿って説明

会長

ニュースレター (資料4-1) の写真からとても楽しそうな様子が伝わってくるが、SNS等には掲載しているのか。

事務局

ニュースレターはホームページに、イベントの様子はSNSに掲載している。イベント実施者にはニュースレターを送っている。

会長

実施前の告知は文字が中心で、どんな様子か伝わらない。実施後に実際のイベントの様子を掲載することで「こんなイベントに行きたい」と思ってもらい、次に繋げることが大切。

(4) 令和8年度工事の予定について (資料5)

- ・ 資料5に沿って光都土木事務所より説明

委員

海側の工事はどうなっているか。そこには入れるのか。いつ完成するのか。

事務局

現状は柵があり、一般の人は入れない。今の工事が終わり次第、入れるようになるが、舗装の工事などが来年度になるので、今年度中は難しい。

会長

ウバメガシの撤去は、間引くことで海が見えたり、木陰の中で人が気持ちよく過ごせたり、子どもがゆっくり、安心して過ごせたり空間を創出するためのものであるが、これは県の整備か、それとも指定管理者の整備か。

事務局

県の整備である。間引いて海の眺望を良くすることもそうだが、昔は夜間入園禁止だったのが現在は24時間オープンとなっているので、南側の柵の全撤去と併せてウバメガシも撤去する。

委員

ウバメガシを何%撤去するのか。

事務局

撤去ではなく、間引く形になる。

委員

伐採木はどのように処理するのか。産廃として処理するのか。

事務局

西側駐車場の南に間伐処理場を整備予定。

事務局

日常管理における伐採木は、たつの市にある㈱コウエイに搬出してもらい、㈱日本海水のバイオマス燃料として使用してもらっている。

4. 次回開催予定

令和9年1、2月頃開催予定

令和8年6月25日（木）に開催された第14回赤穂海浜公園管理運営協議会議事録は、上記の通りであると認め署名する。

議事録署名人

会 長	赤穂 宏樹
委 員	赤野 好正